

# 平成 25 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続いているこの事業は今までに、72,650,130 台の自転車を点検しました。

(一財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、全国 44 都道府県において自転車の点検事業と講習会を実施しました。

「拠点型安全点検」は学校、公園、街頭等で、「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員の自転車店で、「安全点検講習会」は学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等が参画する催事会場で、それぞれ実施しました。

この事業は、平成 26 年度においても年間を通して実施することとしています。

平成 25 年度においては、日頃使用されている自転車 446,964 台を点検し、講習会は 394 会場で実施しました。

拠点型安全点検は 3,043 会場において、411,284 台を点検しました。

会場数	小学校	中学校	高校	公共施設	公園/街頭	その他
3,043	1,314	902	275	168	226	158

要整備箇所の上位は、ブレーキ(前・後ワイヤ、ゴム)、チェーン、ベルまたはブザー、車輪(前・後、タイヤ含む)となっています。件数の中にはタイヤの空気不足、ブレーキやチェーンの油切れ、ベルの取り付けが緩いなども含まれています。

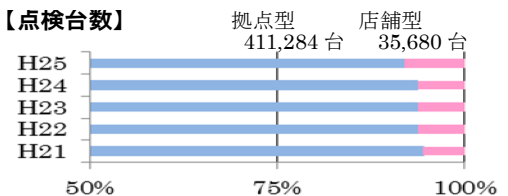
## 【総点検台数における要整備個所の割合】

総点検台数	ブレーキ	チェーン	ベル	車輪 タイヤ含む	ライト	リフレク 尾灯	ハンドル	錠	その他
411,284 台	8.2%	6.1%	5.9%	4.8%	2.7%	2.3%	1.3%	1.2%	3.6%

店舗型安全点検は 1,652 店舗(対前年比 37.0%増)において、35,680 台を点検しました。

点検台数は全体の 8.0%ですが、対前年比 27.9%増加しました。

## 【点検台数】

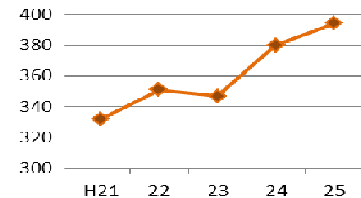


安全点検講習会は 394 会場において、42,517 人の参加がありました。日常点検・整備の重要性、正しい自転車の乗り方や交通ルール・マナー等を題材とした講習会は社会の要請に伴い、会場数は増加しています。

## 【連携先の内訳】

会場数	自治体	町内会	学校	警察	サイクリング	その他
394	65	14	203	63	9	40

## 【会場数の推移】



【拠点型安全点検】



【店舗型安全点検】



【安全点検講習会】



《実施組合(都道府県自転車商協同組合)の所見》概略・抜粋

拠点型安全点検

<p>日常点検整備をする利用者は少ない。点検を行うと調整・整備が必要な自転車は多い。特に、ブレーキ調整とタイヤのエア不足が目立ちます。</p>
<p>この事業を組合の一事業として、今後も実施します。</p>
<p>自転車を安全に乗るための啓発として非常に良いことではあるが、問題点は指摘した要整備箇所が確実に整備されているのかという点です。</p>
<p>学校や地域の方々の協力もあり、無事事業は終了しました。生徒数の多い学校では、二日にまたがって実施しました。</p>
<p>ベル・ブザーの不良、タイヤのすり減り、チェーンの緩み等が多く見られ、注意を促しました。</p>
<p>生徒の少ない学校も多く、点検台数は減ってきています。学校・PTA・安全協会・警察署など多くの協力で終えることができました。</p>
<p>学校が交通安全に力を入れている自転車は整備できています。子供には安全安心な自転車に乗って欲しい。自転車事故が多発しているので、より一層の指導が必要と思います。</p>
<p>子供にとっては生活必需品である自転車を整備点検することで、安全意識の向上に繋がっていると思われます。</p>
<p>学校・公共団体等からの要請により点検を実施し、その場で調整・整備できるもの以外は各自で自転車整備店へ行くよう要請しました。また、TSマーク貼付の推進協力をお願いしました。</p>
<p>拠点型点検会場の91.5%が学校関係でした。学校の統合が進んでいることもあり、昨年より4会場減少。</p>
<p>自転車による交通事故が増えているので、学校の方からTSマークの説明会と自転車点検の実施要請が数件ありました。</p>
<p>加害・被害に関わらず整備不良車は事故発生に繋がることもあるので、今後も支部を通じ、事故防止の観点から整備不良車の早期整備を促すよう依頼しました。防犯登録については登録するよう指導。保険については学校独自の保険加入などもありました。</p>
<p>生徒等は点検整備をしていることが窺えるが、ブレーキ、ベル、チェーン等は事故に直接関係する箇所なので、日頃の点検整備の重要性を常に呼びかけていきたい。</p>
<p>例年に比べ、要整備車が少なくなったと感じましたが、チェーンとブレーキの要整備は多い。</p>
<p>本年度は昨年度より要整備車の割合が減少しました。担当した整備士が誠意をもって継続して取り組んでくれた成果であり、本事業継続により、整備の重要性を認識させ、自転車交通安全に大きく貢献していると考えます。</p>
<p>ベル・ブザーの整備が必要な自転車が多かった。春と秋の年2回実施している学校が9校ありました。</p>
<p>交通安全協会の協力により点検を実施し、本年度は会場数を増やしました。</p>
<p>この点検活動は組合の事業として定着しつつあり、組合員の積極的な活動により学校関係者及び警察署地区交通安全職員の協力を得て、自転車の安全利用の促進ときめ細かな指導を行うなど感謝されています。</p>
<p>初めての学校からの依頼等あり、実施回数が増。点検依頼の需要は多くなりました。</p>
<p>3年生と4年生対象に、警察官の講話と模擬道路教習(評価も伝える)を実施。自転車の安全点検については例年どおり要修理箇所が生徒に分かるように表示し、その後、自転車も加害者の立場になる件について説明。店頭での安全点検の日程を伝えました。</p>
<p>自転車安全点検と警察の交通安全教室が同時開催される会場が増えたように思います。毎年点検を実施している支部は関係団体との関係も良好で、スムーズに実施。そのような支部が増え、実施が定着していく協力をしていきたい。</p>
<p>要請のある学校は安全利用に対して前向きであり、防犯登録もされていて、点検後の要整備車に対しても修理するよう指導していました。要整備箇所はチェーンの弛み、遊びが多いブレーキが目立った。自動点灯付自転車の普及は無灯火防止に好ましい。</p>
<p>今年度も地域の方々と連携をとり、実施できました。来年度も地域の方々、警察、学校などと連携をとり、地域の自転車の安全対策に積極的に取り組みたい。</p>
<p>慣例となった事業で、実施の要望が多くなり、業界の社会的地域の向上に貢献できる大切な事業であり、継続を望みます。</p>
<p>学校に安全点検実施を働き掛けていますが、まだまだ反応は鈍い。学校の点検では要整備箇所があっても十分な整備ができないのが現状。</p>
<p>支部の会場において、沢山の自転車整備士が協力して大きな成果を出しました。自転車の安全が重要な反面整備士の高齢化、減少が問題となっています。</p>
<p>事業を通じ、安全整備について各機関から理解を得、連携もとれてきたが、報告書の内容から自転車ユーザーが各自で日々点検可能な箇所の整備不良が多く見受けられます。身近な車両であればこそユーザーの安全に対する意識向上が望まれます。</p>
<p>学校をはじめ地域においての自転車安全点検を永年続け進めています。残念ながら今年度は諸般の事情により会場数が減少しました。</p>
<p>恒例の事業となっているので、全体的にスムーズに行えましたが、学校側の担当者の異動で以前は全学年が対象だったものが、今回は1学年のみや今年度は行わない学校もありました。</p>
<p>4月から「自転車の安全利用に関する条例」が施行され自転車にはライトと側面反射器材の備え付けが、また、自転車販売業者は販売するときに安全利用の啓発が、盛り込まれました。学校、街頭及び店頭にてこの安全点検事業をさらに推進し、安全な自転車への実現に貢献したい。</p>
<p>学校・PTA・行政等の要望で実施。学校で整備まで実施するのは料金を伴うので難しい、販売店に足を運んで整備して欲しい。</p>
<p>要整備箇所の上位はベル・ブザー、ブレーキ、車輪、チェーン、ライトでした。点検後の整備の重要性を広めていく必要があると思います。</p>
<p>例年同じ学校が点検を実施しているが、今年度から特に、下校時に危険と思われるブレーキ等を点検し、補修するように指示をしました。学校側にも説明をして好評を得ました。今後は特に悪い自転車の修理の必要性を強く進めていきます。</p>
<p>配布用のリーフレットがなくなったので、声掛けで点検を進めましたが、拒否する利用者も多かった。実施時間等も合わせて、再考すべきと思う。</p>
<p>学校の会場数は増えましたが、小規模校が多かった。高校生のハンドル改造が目につきました。都市部の小中学校は自転車通学を禁じています。</p>
<p>ブレーキに不備のある自転車の取り締まりが厳しくなったことを受け、各支部ともブレーキの点検を重視しています。組合員の高</p>

<p>齢化により、縮小傾向にある支部もありますが、毎年行っている学校では、要整備車が減少し、成果を上げています。</p>
<p>安全点検を実施する支部が少なくなってきたようにみられる。依頼を受けたら積極的に受けるよう指導を引き続き行っていきたい。</p>
<p>タイヤの空気不足を指摘するケースが増えているので、項目に追加を希望します。</p>
<p>要整備車の割合が多かったため、ユーザーの方に要整備車が危険であることを周知していく方法を考えたい。</p>
<p>警察本部や所轄警察署からの協力依頼により実施しました。春・秋の全国交通安全運動の一環として一斉の自転車安全指導キャンペーン、定期的な交通安全指導強化、地域安全運動、自転車の安全点検整備など。</p>
<p>防犯登録貼付が100%貼付されておらず、残念に思いますが、そのほとんどがどの会場でもインターネットで購入した自転車でした。直ちに貼付指導をした。TSマークはどの会場でも期限切れが多かった。点検実施後にその場で貼付した会場も多くありました。</p>
<p>現在の実施対象は小中学生なので、自転車点検の必要性を理解してもらうためには保護者参加が一番良いと思います。幸いなことにどの会場も保護者の方が協力してくださり、拠点型の成果は大いにあると思います。できれば、中高生または一般の方対象の安全点検をもっと増やせればと思います。</p>

## 店舗型安全点検

<p>ブレーキの緩みやタイヤの空気不足が目立ちました。</p>
<p>今年度より店舗型の点検を実施しました。組合員の高齢化により新しい事業の理解が不十分なところが反省点でした。</p>
<p>自転車の安全点検は最低「年1回は実施しよう!」と訴え、自転車の正しい乗り方、事故事例を説明、走行時の注意点を中心に説明し、防犯登録の貼付、TSマークの貼付をお願いしました。</p>
<p>本年、初めて実施しました。のぼり旗を立ててあっても、利用者には何のことも理解できなくて、店主の勧めで点検を行ったケースもありましたが、中には大変喜ばれたケースもありました。</p>
<p>他店または通販で購入した自転車の持込点検が増えています。量販店等で購入した物は特に状態が悪いようです。</p>
<p>自転車利用者に対して乗用安全の意識を高めるため、各自転車小売店において、安全点検を実施、要整備箇所はその場でほとんど整備を促し、実施しました。</p>
<p>店頭でののぼり旗を目印に来店された利用者も多く、喜ばれました。点検後に有料の修理が発生し、売上アップになったという報告もありました。</p>
<p>秋の全国交通安全運動の期間に合わせて、自転車の点検を実施しました。整備良好車は少なく、乗りっぱなしの場合が多い。自転車の事故にもなる可能性があるため、十分に気を付けるように指導しました。</p>
<p>東日本大震災と原発事故の両被害を受けた支部で実施しましたが、避難世帯が多く、なかでも自転車通学をしていた中・高校生はほとんど来店がなかった。最近では帰宅する避難世帯も多少は見られ、被災後放置したままの自転車を持参し、自家用車が被災で無くなり、移動手段が自転車しかなく、営業してきてくれて良かったと、点検修理に対し、感謝された事例がありました。</p>
<p>来店者数が少ない。完全に整備された自転車を乗用している方は1割強、不安を感じず乗っていることが不思議です。</p>
<p>一般に自転車の程度が良くなっていると感じる一方、足回り(タイヤの摩耗・ゆがみ・空気圧)の不良が多い結果となりました。乗り心地のためには空気圧が大事なことを伝えられて良かったという店主がいた。TSマークの貼付率は低い、更新されていないものも多い。</p>
<p>組合員参加のもと警察官や交通安全指導員から正しい自転車の乗り方についての話と歩行訓練・自転車訓練を実施し、交通安全の意識を高める講習会を行った。</p>
<p>整備良好車が少ないと思われるので、もう一度整備の見直しを徹底して、安全5則のリーフレットを配布した。</p>
<p>昨年度より実施店舗を増やしました。</p>
<p>店舗での点検が定着したこともあり、来客数が増えました。のぼり旗の効果が出ているようです。</p>
<p>異常気象で来店者の出足が日によって偏りがありました。量販店の多売傾向で、安価な低品質自転車が市場を取り巻いている今日、利用者の安全性が軽視傾向になっています。組合員が技能発揮に努め、業界を再度、甦らす気持ちで取り組んでいきたい。チェーン、バル、ブレーキの不備が相変わらず多かったです。TSマーク普及率も整備店と本部事務局が一体となって推進したい。</p>
<p>本年度店舗型点検を初めて実施しました。のぼり旗が目立って良かった。点検後TSマークの説明をしたら加入。年に数回実施しても良いと思います。修理外の箇所の調整をしたら喜んでくれました。対話を通しての点検は利用者に安全性なども説明することができるので、効果があります。組合として店舗型を推進していきたい。</p>
<p>本年度は前年に比べ、総点検数が減少しました。地域性もありますが、組合員の高齢化に伴い安全点検の実施が難しくなっているのではないかと思います。</p>
<p>ユーザーとの接点として有効な事業であり、量販店・スーパー・ホームセンター等で販売された自転車を組合員が安全点検することで、組合員の社会的地位の向上と共に、信頼を得る事業として、継続を望みます。</p>
<p>積極的にユーザーに声掛けをして店舗型の安全点検を実施しました。要整備箇所を店ですぐに整備することができ良かったです。</p>
<p>昨年3倍近くの店舗型安全点検を実施することができました。初めて取り組む店舗が多かったですが熱心に取り組んでくれました。地域により整備良好車数の偏りがあるようですが、大型店・ホームセンターの自転車ほど整備不良・組立不良が多いとのことでした。次回も多くの店舗にて実施したい。</p>
<p>学校の統廃合でスクールバスに変更になり自転車に乗る子供も少なくなっています。自転車は誰もが簡単に乗れる乗り物ですが、マナー違反やルールを守れないユーザーも多く、事故の一因になっています。今回、道交法改正になり自転車のことがメディアでも多く取り上げられています。この機会に、自転車の整備点検に関する意識も高くなることを望みます。</p>
<p>店舗型はユーザーに直接説明できることもあり、よい結果が出ます。整備店にとってもメリットがあり、良い事業です。</p>
<p>市内の店舗を3等分した形で実施しました。効果があつたと考えます。要整備箇所が見つかった場合、ユーザーすべてが調整・修理を依頼しました。自転車の安全利用の一助となりました。</p>
<p>のぼり旗を見て来店した人もありましたが、大半は修理依頼の来店が多かったです。点検に来たお客様とのお付き合いを期待しています。</p>

初めて実施したので、組合員の理解に時間を要しました。しかし、終了後半数以上の組合員からこういった取り組みは普段から行っていないとお客様への声掛けが難しく、今後、積極的に安全点検に取り組みたいという意見がありました。道路交通法の改正でルールが変わっている点も説明しながら点検を行いました。ユーザーには普通に乘れていると点検は必要ないと思われがちなのが、心配です。
全体的に要整備車が多く、安全に対する考えがまだまだユーザーに浸透されていない現状です。昨年条例により安全点検が努力義務化されましたが、一般ユーザーの認識はまだ薄く、今後、安全点検の啓発活動も必要と思います。
店舗型を実施しましたが、普及させていくには困難な状況です。思ったより手間暇がかかるという意見が多かったです。
年度途中での廃業や病気休業により予定数を下回りました。修理のため来店したお客に対して無料点検を勧める場合がほとんどで、のぼり旗を掲示していても、点検を目的に来店することはほとんどなかったです。点検した自転車はタイヤの空気圧不足が目立ったという報告からも、今後も各店舗での丁寧な説明と点検・整備の地道で継続的な実施が望まれます。これにより日常の点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深め、さらには利用者の安全意識の高揚を図る効果も一層高まるものと期待されます。

## 安全点検講習会

日常行う必要がある点検箇所の説明をしました。安全に使用し、事故を未然に防ぐためには点検が必要であることを確認してもらいました。
各地区において講習会を実施し、交通ルールを守ることの大切さ、事故防止の意義を学ぶ機会として講習会の実施要望が多数ありました。
高齢者の事故対策として実施しました。映像による交通事故発生状況の説明などをしました。
資料にそって講習会を行い、子供、高齢者や夜間乗用の注意説明をしました。
今年も学校を中心に自転車の安全な乗り方や心構え・点検整備の重要性について、実技指導を行いながら説明しました。
乗り方の指導後、交通ルール・マナーや保険に対する認識を深めることができました。
自転車の安全対策の向上を図るため、主に学校における各種催事に協力し、自転車の乗り方や点検整備について講話と実技を実施しました。学校も積極的に取り組む姿勢が見られました。
警察や地域、教育関係の方々との協力のもと取り組みました。自転車に安全に乗るためには、自転車の点検・整備の大切さを伝え、実際に体験してもらった会場もありました。また、高校生には特に、ハンドルや荷台の変形について、危険性が伴うこと等を指導しました。
子供や老人の交通事故が増えているので、町内で子供会や老人会などが協力した交通安全教室を開催する所が増えています。
小学校での開催の内容は警察官・交通安全協会の協力による交通安全講話、組合員による参加児童の自転車点検、さらに学校周辺の道路に出ての実技指導と、きめの細かい講習をしました。実施校の教職員が大変感謝していたとのことでした。
警察・学校との連携により、実施しました。安全な自転車で交通マナーを遵守して乗ることで、安全な乗り物となることを認識してもらったと確信しました。
学校職員や生徒保護者から交通安全に必要な法規、マナー、自転車の安全な乗り方等、低学年を対象とした実施要望が多いです。本年度は11校中10校が小学生対象でした。要望にも十分に答えられ、成果は大いに期待できると考えます。
最近では自転車事故でも多額の賠償責任が起きているので、自転車の整備に気をつけて、加害者にもならないよう説明しました。自転車の正しい乗り方を心がけるよう説明しました。
毎年同じ会場だが、警察署、学校(指導教諭、PTA、生徒会)と支部会員で、自転車の正しい乗り方、悪い乗り方の事例も交え、最近の交通ルールの改正と、罰則などの講話をしました。
学校、PTAと安全協会の連携のもとに、毎年実施する自転車の乗り方やマナーのビデオ等で体験するのはとても意義深い。
小学校の高学年では、昨年の講習効果が見受けられ、参加組合員が感動しました。自転車安全利用について、日常の点検・整備の仕方とその重要性を説明し、生徒代表により安全点検を反復実施し、有意義な講習会が実施できました。TSマークの普及は有料のため保護者の認識度を高める必要があることに痛感しました。自転車の要整備箇所については、修理するよう勧めました。
小学生向けに分かりやすい内容を心がけました。来年度も自転車の安全利用の啓発活動の強化に努めます。
自転車事故による賠償金額が大きくなり、それをマスコミが取り上げ、報道されることで自転車離れが起きることを懸念し、安全で安心をアピール手段として有効な講習会でした。
自転車の安全な乗り方、交通マナー等の指導の他、自転車の点検も実施しました。親子とも安全に対する意識が強まりました。
例年どおり、各会場で講習会を行い好評でした。自転車の安全点検と安全講習会の両方を希望する学校関係者が多いです。
長年講習会を行ってきた地域では、自転車安全運転に対する意識が高まってきたように感じます。しかしながら、地域により道路事情が大きく異なることもあり、自転車ユーザーの意識にもバラつきがあります。講習会の開催と並行し自転車が安全に走行できる道路整備が急務と思われます。
子ども・高校生・高齢者対象に自転車事故の減少、事故を未然に防ぐための安全利用、自転車のマナー向上についての指導を行いました。特に登下校途中の安全な通行方法と、違反自転車への指導を周知徹底しました。
自転車点検及び交通ルールについて交通指導員の指示に沿って実施しました。
低学年と高学年に分けて実施、交差点・横断歩道・踏切等のコースを作り、渡り方・安全確認等の交通ルール、自転車の点検の指導を行いました。豊学校の場合は先生の手話を介しての指導なので理解度は不明ですが、繰り返し訪問指導をし、理解してもらうよう努力していきます。
指導員のための講習を実施しました。ここ数年は参加希望者が多い。講義後自転車コースを使用し、安全な乗り方等を講習。地域や職場・学校で本日受講したことを役立てられると思います。
イベントの場合は、大勢の人が集まるので大変成果があります。
各地区の交通安全協会が老人クラブ、町内会等に呼びかけて開催した「自転車マナーアップ大会」の学科試験の前に「自転車の正しい乗り方」の講習会を実施。自転車事故の多くは高齢者とみられ、今後もこのような大会、講習会は必要と考えられます。
毎年実施している小学校では地区安全協会と一体になり交通安全に努めていて、地区の交通死亡事故ゼロが3,000日を達成したりし、児童の交通事故減少に効果が出ています。

道路交通法が一部改正され、自転車に対する取り締まりがさらに厳しくなりましたが、右側通行車・無灯火等がまだ当然のように見られます。交通ルール、乗り方をこの講習会で浸透させることは有意義です。各支部で取り組んでもらえるよう声掛けをしていきたい。
衝突のデモンストレーションを行うことにより、児童が自転車の乗り方について考え、安全な運転をしてもらいたい。
条例の影響で来年度は実施会場が増加する見通しです。出動する組合員の高齢化が問題です。
全国交通安全運動の一環として高齢者や子供を対象とした交通安全教育行事等と連携して、自転車の正しい乗り方と点検・整備について実演による分かりやすい講習を実施し、自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性についての認識を深めることができました。今後も自治体・学校・警察等との連携により継続的に講習会を実施し、自転車の安全利用の推進に努めたい。
自転車の乗り方や交通ルールをそれぞれのプロが直接子供たちに教えることのできる良い機会なので、皆熱心に聞き、一生懸命に乗り方や自分に合った自転車の選び方を教わっていました。また講習会を通して小学生の頃から社会のルールを知っておけば良い大人になるのではないかと思います。

以 上